



### 書庫ツアー

書庫ツアーは年4回開催しており、普段は来館者が入ることのできない書庫を巡り、当館の特徴的な資料などに触れていただきます。

## 目 次

### 平成23年度事業報告（平成23年7月以降）

＜新規事業＞全道図書館専門研修	1～2
北日本図書館連盟研究協議会・全道図書館研究集会	3
全道図書館中堅職員研修会	4
道民カレッジ連携講座（北海道医療大学共催セミナー含む）	5～6
「住民生活に光をそそぐ交付金」の活用	7
平成23年度全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰	8～9
平成23年度北海道立図書館協議会	10
資料紹介『コレクション・モダン都市文化』（復刻資料）	11～12
レファレンスあれこれ 北海道の「埋もれた食材」をおいしく食べよう	13
道内図書館紹介「出会いといのちの森・滝川市立図書館」	14～15
平成24年度事業予定一覧表	16
平成24年度展示予定一覧表	17

## ＜新規事業＞ 平成23年度全道図書館専門研修

### 【経営】

期 日：平成23年12月7日（水）

会 場：苫小牧市立中央図書館

参加人数：25名

日 程：

- ・講演「**「脳再考 幕別町図書館の実験」** 幕別町図書館館長 長谷繁氏
- ・事例紹介「**「図書館使ってます！」**～まちのみんなに言われる図書館に～  
北海道立図書館北方資料室長 鈴木浩一
- ・グループ演習（企画とプレゼンテーション）  
北海道立図書館企画支援課長 宮本浩



長谷繁幕別町図書館長

「ためになる・役に立つ・楽しいまちの図書館をPRする」をテーマとして、「経営部門」の研修を開催しました。

幕別町図書館館長長谷繁氏の講演では、自ら手がけた図書館のホームページのリニューアル、他機関と連携した事業、館内表示の工夫などPR全般についてお話しされ、柔軟な発想やアイデアを取り入れた図書館運営についても触れていただきました。



事例紹介では、図書館におけるPRの具体例として、広報資料などによる「お知らせ」に止まらず、イベントや企画展示等を通じて図書館の活動を住民に理解していただくことがPRにつながるとして、市町村や北方資料室の取組を幅広く紹介しました。

グループ演習では、①ホームページのコンテンツ ②施設のリニューアル ③企画展示 ④子ども向けイベント ⑤一般向けイベントのテーマをグループに与え、具体的な事業を企画してもらい、グループ毎に発表を行いました。

事後アンケートでは、「大いに役に立った」が86%を占め、また「特に役に立った」プログラムとして、回答者全員が“講演”を選択しました。

今回の研修テーマは、今後の図書館のあり方を考え、新たなサービスを展開していく上で重要な視点となるものです。研修の成果が、各図書館の運営に反映されることを期待します。

### 【サービス】

期 日：平成24年2月17日（金）

会 場：北海道立図書館研修室

参加人数：22名

日 程：

- ・講義「**製本に関する基礎知識と資料保存・補修について**」  
北海道立図書館企画支援課主査 中田こずえ
- ・演習1「**簡易な補修**」  
北海道立図書館北方資料課主査 一戸泰
- ・演習2「**無線とじによるポストカードブックづくり**」  
北海道立図書館企画支援課主任 山本真紀
- ・演習3「**糸を使った絵本の修理**」  
北海道立図書館利用サービス課主任 佐々木裕道

「図書館資料を長く有効に活用するために」をテーマに、北海道立図書館職員が講師となり、演習を中心に実際に本の修理の過程を体験することをねらいとしました。本を修理するための基礎知識について講義し、修理の道具、製本の種類、さらに修理よりも予防として先に手を施すことや資料の扱い方、また修理をしない場合などを紹介しました。

演習1では補修テープによる簡単な修理やボランティアを活用する際の実例を紹介しました。その後は本のつくりに応じた修理の内容となり、演習2では無線じの本の修理、その中で麻糸（平麻）を埋め込む過程を行いました。演習3では糸でかがり直す絵本の修理を行いました。糸かがりの方法2種類を紹介し、その中の一本針かがりでは実際に破損した絵本をそれぞれ糸でかがりました。本を解体する本格的な修理を経験したことがない参加者が多く、アンケートではほとんどが有益だったとの回答でした。特に児童書は破損の頻度が高く、修理方法を知りたいという要望が多かったので、演習3は大変好評でした。

### 【児童】

期 日：平成24年1月12日（木）

会 場：帯広市図書館

参加人数：32名

日 程：

- ・説明「北海道教育委員会における子ども読書活動に係る取組について」  
北海道立図書館企画支援課企画主幹(子ども読書) 吉原和夏子
- ・事例紹介「小中学校における公立図書館の活用について」  
音更町立東土幌小学校教頭 椎林達也氏
- ・事例紹介「帯広市図書館における小中学校への支援について」  
帯広市図書館嘱託職員 森田雅美氏、只野沙織氏
- ・グループワーク

助言者：椎林達也氏、森田雅美氏、只野沙織氏  
進行：吉原和夏子、北海道立図書館企画支援課主査 中田こずえ



「子ども読書活動における学校と公立図書館（公民館図書室等）の連携」をテーマに据え、学校図書館担当の教職員の参加も呼びかけ、十勝を中心に10名の教職員の参加がありました。

椎林氏は、町内の学校・図書館・教育委員会による担当者会議を立ち上げたことにより連携が進んだ例などを紹介するとともに、地域が一体となって子ども読書活動を進めるためには、子ども読書活動推進計画の策定が必要であることを述べました。帯広市からは、35冊1セットにして学級に届ける「ぶっくーる便」、学校図書館クリニック、図書館活用術冊子等の取組が紹介されました。

グループワークは、学校・公立図書館それぞれの職員が入るグループ構成で、学校と公立図書館の連携のモデルをつくりました。終了時の発表会では、まちの中に学校図書館、公立図書館（室）、教育委員会（学校教育・社会教育）による担当者会議を設置して連携を図ることが重要であるという意見が多く出されました。

事後アンケートでは、開催時期について再考を求める意見があったほかは好評で、事例紹介、グループワークともに、学校・公立図書館それぞれの現場の実態にふれることができ参考になったとの感想が目立ちました。

（総務企画部企画支援課）

## 平成23年度北日本図書館連盟研究協議会 全道図書館研究集会

「どんな時にも立ち上げられる図書館を目ざして」

当研究協議会は当初、宮城県において開催の予定でしたが、東日本大震災の影響から開催地を北海道に変更し、全道図書館研究集会と合同で開催することとなりました。

北日本図書館連盟の加盟館にも大きな被害を及ぼした東日本大震災の経験から、緊急事態に対する図書館としての備えについて考えるテーマを設定しました。

saveMLAKプロジェクトの江草氏からは、大震災後の救援を情報面で支える活動から見えてきた、図書館における方策について紹介していただきました。日本図書館協会の松岡氏からは、大震災後の全国的な動きを中心に情勢報告をしていただきました。新潟県立図書館長の安藤氏は、中越地震の際、総合政策部企画課長として内閣府との調整窓口を担当し、その後、被害の一番大きかった長岡地域振興局の部長として最前線で震災の復旧・復興に携わった経験から、自治体としての対応について、そしてその中の図書館の行動について、示唆に富むお話をお聞かせいただきました。情報交換や交流会では、被災した図書館の体験談も聞くことができ、アンケートには「大変参考になった」「気づきの場となった」という感想が寄せられました。

期 日：平成23年10月6日（木）～7日（金）

会 場：札幌市中央図書館

参加人数：42名

日 程：



### 【1日目】

講演「今後に向けて図書館ができること」 saveMLAKプロジェクト 江草由佳氏  
情報交換「もしもに備えて今できること」

### 【2日目】

講演「災害時に図書館に役に立つか？」 新潟県立図書館長 安藤哲也氏  
情勢報告 社団法人日本図書館協会事務局長 松岡要氏  
参考情報：事業継続計画（BCP）策定状況

情報交換の参考のため、道内全ての図書館（公民館）及び東北地方から参加の図書館を対象に、BCPについての事前アンケートを実施しました。何らかの計画を策定済み又は策定予定の自治体は次のとおりでした。

- ・ 新型インフルエンザ対策のBCPを策定済み：旭川市、青森県教育委員会（ともに平成21年度）
- ・ 策定予定がある：帯広市（平成24年度内に素案作成予定）
- ・ 地震対策のBCPを策定済み：北海道（平成22年度）

（総務企画部企画支援課）

## 平成23年度全道図書館中堅職員研修会

本研修は、「学校図書館」、「子どもの読書活動推進計画の策定」、「子どものための図書館サービス」を柱にプログラムを構成し、これからの子どもの読書活動の推進について考えました。

「学校図書館」については、講演として、学習指導要領における読書活動の位置づけや北海道学校図書館協会の活動、講義では、司書教諭としての実践や学校図書館の運営を紹介し、理解を深めました。お二人のお話から、公共図書館と学校図書館との連携についてのポイントも知ることができました。

「子どもの読書活動推進計画の策定」では、行政だけでなく地域住民の要望やアイデアを積極的に取り入れて進める事例が報告されました。

「子どものための図書館サービス」として、地域資料やレファレンスサービスを工夫する視点で講義し、演習では、子ども・親・学校のそれぞれの立場から公共図書館に期待することをグループで考えました。

事後アンケートでは、学校図書館と公共図書館の連携だけではなく、行政と住民が協働する必要性を強く感じたという声が多く寄せられました。

期 日：平成23年7月15日(水)～16日(金)

会 場：北海道立図書館

参加人数：28名

日 程：

### 【1日目】

講演「学校図書館の充実と北海道学校図書館協会」

札幌市立福住小学校長（北海道学校図書館協会会長） 大久保雅人氏

講義「教育課程の展開に寄与する学校図書館」

札幌市立発寒中学校司書教諭（北海道学校図書館協会研究部部長） 佐藤敬子氏

### 【2日目】

講義「子どもの読書活動推進計画の策定」 真狩村教育委員会社会教育係長 本間亨氏

講義「子どものための地域資料とレファレンスサービス」

北海道立図書館企画支援課長 宮本浩

演習「子どもの図書館利用を推進するために」

北海道立図書館企画支援課企画主幹（子ども読書） 吉原和夏子

(総務企画部企画支援課)



## 道民カレッジ連携講座

### ● 北海道医療大学との共催セミナー「わかりやすい健康に関する情報講座」

毎年恒例となった共催セミナーですが、今年度は会場を初めて紀伊國屋書店札幌本店1階インナーガーデンに移し、昨年5月28日（土）に行いました。「生活習慣病の予防ーがんを中心にー」と題した北海道医療大学の小林正伸教授の講演と、当館職員から「健康情報を入手するための図書館活用術」を解説しました。通りすがりに知っての来場もあり、参加者は51名。関心の高いテーマだけにアンケート結果も大変好評でした。



### ● 暮らしに役立つ図書館活用術

昨年6月23日（木）の「基礎編」では、図書館サービスのさまざま（閲覧、貸出、レファレンス<調査相談>、イベント参加等）や、本の探し方など、図書館を使いこなすコツをわかりやすく具体的に解説。図書館活用術の関連本も展示しました。7月7日（木）の「応用編」は、「雑誌・新聞記事の探し方」「医療健康情報の探し方」をテーマに、便利なインターネット情報のほか、役立つ蔵書の紹介、実際の調べ方を間近で見てもらおうなどしました。

各回15名の参加があり、図書館が身近になった、調べ方がわかった、実物を見ながらの解説がよかった等の感想が寄せられました。

### ● インターネット活用術



昨年11月24日（木）「検索エンジンを上手に使う」では、検索エンジンの基礎知識、代表的なYahoo!とGoogleそれぞれの特性や検索のコツ等を解説、12月15日（木）「図書館員が選んだお役立ちサイト」では、暮らしに身近なレシピ、天気情報、地域情報として自治体のHPや防犯、消費者問題、金融情報、住宅のリフォーム、生活や実務に役立つ

計算サイト、地図情報等のサイトを解説。

連続で申し込まれた方が大半で、合計で23名の参加でした。アンケートでも、役に立った、活用できそうだとの声があり、好評でした。

(利用サービス部利用サービス課)

北方資料室では北海道の歴史・文化を学ぶ機会として、北海道史研究協議会の御協力をいただき毎年講演会を開催しています。さらに、今年度からは、職員による北方資料室限定の書庫ツアーを開催しています。

### ● 第9回資料で語る北海道の歴史講演会

#### 「クナシリ・メナシの戦いとラクスマン来航」

11月12日（土）、定員50名満席での開催となりました。近世後期の蝦夷地東部でのアイヌの戦いや、通商・通交を求めたロシア使節ラクスマンの来航などの激動の時代について、川上淳氏（札幌大学教授）に御講演いただきました。

豊富な史料に裏打ちされたアカデミックなお話を、絵や図版によりわかりやすく解説され、大変興味深い講演となりました。

講演後も数々の質問が飛び交い、盛況のうちに終了しました。アンケートからも北海道の歴史への関心の高さがうかがえます。

また、この講演会にちなんで千島に関する資料展示を10～12月に行い、多くの方に御観覧いただきました。

### ● 北方資料室書庫ツアー「北方資料室書庫探見～北海道を切り拓いた先人たちの軌跡～」

今回の書庫ツアーは、北海道の「開拓」をテーマに、関連する貴重なコレクションを中心とした北方資料を案内するもので、研修室と第1書庫を会場に、2月16日（木）に22名の参加により開催しました。

会場の研修室では、「開拓」の関連展示として、中標津町郷土館主催の写真展の紹介や、北方資料の紹介展示を行い、当館所蔵の16mmフィルム『北海道の拓殖』の上映、北海道の開拓・移住について調べる際に役立つフリーレットの配布と資料紹介を行いました。その後第1書庫に移動し、普段は見ることのできない書庫の様子や、殖民地区画図や移住・拓殖、屯田兵等に関する資料のほか、北越殖民社資料、河野常吉資料、山田文庫等の貴重なコレクションを紹介しました。

ツアー終了後の質疑応答では、資料や書庫に関する質問やツアー全体を通しての意見が多く寄せられ、また、事業後に行ったアンケートでも、「書庫内をもっとじっくり見たい」「一日中いても飽きない」等の意見や、今後のツアー運営に役立つ意見が多く寄せられました。



北方資料室書庫ツアーの様子

(利用サービス部北方資料室北方資料課)

## 「住民生活に光をそそぐ交付金」の活用 ～購入した資料を紹介します～

国の「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して、一般資料では、児童書、過去5年間に入手できなかった事典・辞書等のレファレンス・ブックを中心に、全集やシリーズ物を含め、約43,000冊を購入しました。大型絵本については、入手可能なものを全点購入しています。未だかつて経験したことのない受入冊数に職員も四苦八苦。うれしい悲鳴となりました。



<資料を提供できるように作業中！>

<こんな資料買いました！イチ押し資料！>

- ・『<sup>きんもろずい</sup>訓蒙図彙集成』(全23巻、別巻1)  
江戸時代の百科図典、絵が面白い。
- ・『朝日新聞外地版』(全68巻、別巻1)  
満州、台湾版。当時の世相がわかり貴重。
- ・『文芸時評大系』  
今までは索引のみの所蔵。やっと、本文が見られるように！

また、幕末、明治から昭和中期までの古地図、古文書や絵はがきを含む北海道関係の資料、道内企業の古い営業報告書をマイクロフィルム化したものなども、北方資料として購入しました。併せて、当館が所蔵している古地図や古文書などの貴重資料をデジタル化する作業も行い、ホームページ内の「北方資料デジタルライブラリー」に順次掲載していく予定です。

今までないとあきらめていた資料も、もう一度検索してみてください！

<こんな資料買いました！郷土資料編>

- ・『史蹟日露国境策定会議記念』(絵はがき)  
明治38年、ポーツマス条約により樺太の南半分が日本領となり、翌39年国境画定会議が日本郵船株式会社小樽支店にて開かれました。会議を記念し、国境標石や会議の様子を絵はがきとしたものです。
- ・『北蝦夷地見分書付』(古文書)  
嘉永6(1853)年におきた、ロシアがクシュンコタンを占領した事件について、幕府の役人堀織部、村垣与三郎がまとめた調査報告書です。



<上> 『北蝦夷地見分書付』

<下> 『史蹟日露国境策定会議記念』(絵はがき)

(利用サービス部資料課、北方資料室北方資料課)

## 平成23年度 全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰

北海道読書推進運動協議会

(社)読書推進運動協議会では、「読書週間」事業のひとつとして、全国優良読書グループ表彰を実施しています。北海道読書推進運動協議会においては、全国表彰への推薦と合わせて、独自に北海道表彰を行っています。

### 全国表彰（1団体）

#### ●お話会「カッコウ」 上士幌町 昭和60年設立

家庭教育学級に集う母親が中心になって結成しました。設立当時は町立図書館が設置される以前で、本団体が毎週行ったお話会や移動図書館活動は、子どもの読書活動の推進に大きな役割を果たしました。

読み聞かせのほか、親子対象のジャンボ紙芝居づくりや大人のお話会等、町民が主体的に読書活動を進める機会を継続的に提供しています。

平成6年度の道新ボランティア奨励賞受賞を始め、上士幌町文化奨励賞（平成7年度）、十勝管内教育実践表彰（平成12年度）、上士幌町教育文化賞（平成16年度）と多彩な受賞歴も、着実な実践を物語っています。

### 北海道表彰（5団体）

#### ●すみれ文庫 千歳市 昭和63年設立

昭和62年当時、地域に図書館がないため、子どもたちが本に親しむ場所を提供しようと図書への寄贈を呼びかけ、泉沢向陽台コミュニティーセンター2階に設立されました。

地域住民への貸出しや読み聞かせのほか、学校での読み聞かせ、育児アドバイスなど、地域の憩いの場として活動を地道に継続してきました。

#### ●読み聞かせサークル「ひまわり」 鹿部町 平成11年設立

教育委員会が募集した読み聞かせボランティアに集まったメンバーが話しあい、サークルとしての活動が始まりました。「子どもとのふれあい」をモットーに、中央公民館や町内・近隣市町の小学校や書店等で読み聞かせ活動を続けています。

また、会員2名が町の読書推進委員として、お薦めの本を探したり、子どもや親の読書活動充実させるための取組を提案、実践しています。

#### ●学校読み聞かせクラブ 富良野市 平成14年設立

親子の読書活動を推進するため、「ちびノンタン」として活動を開始しました。

保護者への読み聞かせに適した絵本の情報提供、学校支援ボランティアへの支援、研修会の企画運営等により、市内80名のボランティアの育成に貢献しています。

市立図書館における「子どもの図書館まつり実行委員会」の組織化や、読書を推進する行事に主体的に参加することにより、子どもたちの利用の増大にも大きく寄与しました。

●ポコ・ア・ポコ 和寒町 平成6年設立

図書館設立時の読み聞かせボランティアの声かけをきっかけに発足しました。

メンバー間の引き継ぎを経て、現在はブックスタートの体験世代である30代の母親が中心となり、「楽しみながら！」をモットーに、「あかちゃんおはなし会」など新しい取組を積極的に行い、図書館での読み聞かせ会を地域や家庭に定着させています。

●大空文庫の会 帯広市 昭和55年設立

図書館の呼びかけにこたえて、新興住宅地の住民24名により発足しました。

図書館から毎月配本される本と、独自に集めた本とを合わせた約5,000冊を地域住民に貸し出すとともに、読み聞かせなどの活動を行っています。

土曜日の午後にやってくる子どもたちの話し相手になっている姿は、高齢化するボランティアが活動していくことの良き手本といえます。

**北海道表彰・北海道地域活動振興協会理事長賞（3団体）**

●ふれあいの森情報館友の会 黒松内町 平成14年設立

読書活動普及を図るため、有志によるサークルとして活動を開始し、平成16年度、図書館機能を有した「ふれあいの森情報館」開館に伴い正式に設立しました。

また、町、町教育委員会、福祉施設等に協力して読書普及、情報館のPR、子どもたちの居場所づくり等、幼児から高齢者までの読書活動を推進しています。

●おはなしりぼん 登別市 平成17年設立

会長が小学校の「心の相談室」を担当していたとき、子どもの発達について母親から悩み相談を受けたことをきっかけに、子どもたちの様子がわかると同時に絵本の楽しさを伝えられる「読み聞かせ」を発案し、学校の快諾を得て母親14名で発足しました。

活動場所は図書館に限らず多岐にわたり、広範囲の人々に対し積極的に心の育成に取り組んでいます。

●うさぎのみみちゃん 北斗市 平成16年設立

2名で活動を開始し、近所の親子や子育て支援センターを訪れる方を中心に輪を広げてきました。

市立図書館で開催する小学校区ごと（10会場）の「おはなしひろば」を担当する他、子育て支援センターでの読み聞かせや、研修会や他グループが行う読み聞かせ会に積極的に参加し、多様な手法を用いて「お話の楽しさ」を伝える努力を重ねています。

(総務企画部企画支援課)

## 平成23年度北海道立図書館協議会

今年度の協議会は、次のとおり開催しました。

- ・ 第1回 平成23年7月7日（木）北海道立図書館会議室
  - 議題1 平成22年度業務実績について
  - 2 北海道立図書館事業推進計画について（達成状況）
  - 3 その他
- ・ 第2回 平成23年11月29日（火）北海道立図書館会議室
  - 議題1 新「北海道立図書館事業推進計画」の策定について
  - 報告1 平成24年度予算要求について
  - 2 政策評価二次評価意見について
  - その他
- ・ 第3回 平成24年3月16日（金）北海道立図書館会議室
  - 報告1 北海道立図書館条例の改正について
  - 2 平成24年度予算要求について
  - 3 政策評価二次評価意見について
  - 議題1 平成24年度北海道立図書館運営計画（案）について
  - 2 新「北海道立図書館事業推進計画」（素案）について
  - その他

●昨年度の補正予算に計上された地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）を活用した資料の整備事業（デジタル化を含む）等を行ったことにより、「北海道立図書館運営の基本方針」に沿った事業について、一層の充実が図られるよう期待されました。また、『北の資料—北方資料室40周年記念号—』に掲げる貴重資料の所蔵について高く評価され、道民への積極的な広報に努めるよう、意見がありました。

●平成23年8月の図書館法の一部改正により、図書館協議会委員の任命基準について図書館法施行規則を参酌し、各自治体の条例で定めることとなりました。改正後の北海道立図書館条例は、北海道のホームページに掲載されています。[\(北海道のホームページ>行政・政策・税>条例・規則・公報\)](#) 来年度は、委員の改選期にあたり、任期は平成24年11月1日から平成26年10月31日までの2年間です。時期になりましたら、委員の公募について当館ホームページに掲載する予定です。

●当館ホームページの「北海道立図書館協議会」のページでは、会議開催のお知らせを随時掲載するほか、目的及び概要、委員名簿、会議の概要等を掲載しています。

[\(トップページ>道立図書館について>道立図書館協議会\)](#)

(総務企画部管理課)

## 『コレクション・モダン都市文化』（復刻資料）

平成23年度の「住民生活に光をそそぐ交付金」により購入した資料の中から『コレクション・モダン都市文化』（和田博文監修 ゆまに書房 2004～2012年）を紹介します。

「1920年代から30年代、世界中の主要な都市で、ほぼ時を同じくして、近代的、かつ都市的な生活文化が花開いた時期があり、わが国においても、欧米の動向がわずかな時間差で紹介された」近代化現象がありました。（『モダニズムのニッポン』橋爪紳也著 角川学芸出版 2006年）

南博は「この日本モダニズムは明治以後の日本で、最初の近代化現象である文明開化と、戦後の占領期にみられるアメリカニゼーションという、二つの大きな近代化のうねりの中間にみられる、もうひとつの近代化のうねりである」と言っています。

（『日本モダニズムの研究』南博編 ブレーン出版 1982年）

『コレクション・モダン都市文化』は、その大正から昭和初期の「モダン」という言葉に代表される当時の大衆文化を記述し戦前までに刊行された文献を、各巻のテーマ別に復刻編集したもので、その時代の雰囲気を知ることができます。



<第16巻「モダンガール」>

例えば、第16巻の「モダンガール」（垂水千恵編）は、1927年刊行の片岡鉄平著『モダンガールの研究』等の3冊の単行本、雑誌『女性改造』（1923年4月）等に掲載された5点の雑誌文献を復刻、巻末にはエッセイ、解題、関連年表、主要参考文献が掲載されて、“モダンガール”というテーマを多角的に理解出来るよう編集されています。下記の表にあるように多彩なテーマ設定で、当時の文化を知る読み物として興味深いコレクションとなっています。

同様の復刻資料として、文学におけるモダニズム関連資料を復刻した『コレクション・都市モダニズム詩誌』と、1920～1930年代に発表された、当時の都市風俗をありのままに伝える文学作品、ノンフィクションを収録した文学全集『モダン都市文学』も当館で所蔵していますので併せてご利用ください。

参考までに各巻のテーマを次表に掲載します。

『コレクション・モダン都市文化（全80巻）』（ゆまに書房 2004～2012年）

1巻	銀座のモダニズム	2巻	ファッション	3巻	築地小劇場
4巻	ダンスホール	5巻	モダン都市景観	6巻	丸ノ内のビジネスセンター
7巻	円タク・地下鉄	8巻	デパート	9巻	競技場
10巻	広告と商業美術	11巻	浅草の見世物・宗教性・エロス	12巻	カフェ
13巻	グルメ案内記	14巻	レビュー	15巻	エロ・グロ・ナンセンス
16巻	モダンガール	17巻	資生堂	18巻	アパート

19巻	映画館	20巻	大阪のモダニズム	21巻	モダン都市の電飾
22巻	花街と芸妓	23巻	セクシュアリティ	24巻	歌舞伎座
25巻	変態心理学	26巻	関東大震災	27巻	未来主義と立体主義
28巻	ダダイズム	29巻	構成主義とマヴォ	30巻	表現主義
31巻	「帝都」のガイドブック	32巻	ラジオ放送局	33巻	サラリーマン
34巻	遊郭と売春	35巻	浮浪者と下層社会	36巻	郊外住宅と鉄道
37巻	紀伊国屋書店と新宿	38巻	装幀・カット	39巻	漫画
40巻	探偵と小説	41巻	新興写真	42巻	建築
43巻	ル・コルビュジエ	44巻	デザインとバウハウス	45巻	機械と芸術
46巻	少女	47巻	女学校と女子教育	48巻	恋愛
49巻	美容・化粧・装身	50巻	舞踊とバレエ	51巻	モダン都市の新形態美
52巻	軽井沢と避暑	53巻	結核	54巻	鎌倉と海水浴
55巻	病院と病気	56巻	少年	57巻	旧制高校と大学
58巻	マルクス主義	59巻	アナーキズム	60巻	新劇と移動演劇
61巻	旅行・鉄道・ホテル	62巻	京都とツーリズム	63巻	奈良とツーリズム
64巻	海港都市・横浜	65巻	海港都市・神戸	66巻	江戸文化と下町
67巻	漫才と落語	68巻	芸能と見世物	69巻	大衆と『キング』
70巻	職業婦人	71巻	帝劇と三越	72巻	女優と男優
73巻	クラシック音楽	74巻	ジャズ	75巻	歌謡曲
76巻	博覧会	77巻	公園・遊園地・動物園・水族館	78巻	生活空間
79巻	丸善と洋書	80巻	出版メディア		

\* 71巻～80巻は平成24年度購入予定です。

『コレクション・都市モダニズム詩誌 (全15巻)』(ゆまに書房 2009～2011年)

1巻	短詩運動	2巻	アナーキズム	3巻	シュールレアリスム
4巻	ダダイズム	5巻	新散文詩運動	6巻	新即物主義
7巻	主知的 情詩の系譜 I	8巻	主知的 情詩の系譜 II	昭和の象徴主義 I	
9巻	昭和の象徴主義 II	10巻	レスプリ・ヌーボーの展開	11巻	都市モダニズム詩の大河 I
12巻	都市モダニズム詩の大河 II			13巻	アルクイユクラブの構想
14巻	VOUクラブの実験	15巻	VOUクラブと十五年戦争		

『モダン都市文学 (全10巻)』(平凡社 1989～1991年)

1巻	モダン東京案内	2巻	モダンガールの誘惑	3巻	都市の周縁
4巻	都会の幻想	5巻	観光と乗物	6巻	機械のメトロポリス
7巻	犯罪都市	8巻	プロレタリア群像	9巻	異国都市物語
10巻	都市の詩集				

(利用サービス部利用サービス課)

## 北海道の「埋もれた食材」を美味しく食べよう

世の中にあまり知られていない食材、捨てられていた部位、あるいは害獣とされているものを地域の資源に変えようとの試みが道内各地で行われている中で、食に関してこんな照会がありました。

### 「タコマンマ」について名前の由来や調理法が分かる資料はあるか

初めて耳にする言葉なので詳細を尋ねたところ、タコの頭（胴体）の中にある卵のことでした。調べてみると、北海道で獲れるヤナギダコやミズダコの卵のことをいい、「加熱すると白いご飯粒そっくりになるところから名がついた」（『北海道くいしんぼう浜の旬食べ歩き』）ことがわかりました。

1954年11月の『北水試月報』「タコの卵と厚岸のイソガニ」では、マンマを明石の名産物でマダコの卵「海藤花（かいとうげ）」の代用として、酢の物や、味噌醤油で煮詰めて珍味にすることを提案しており、この部位の食べ方を昔から模索していたことが窺えます。北海道の食に関する種々の本でもタコマンマが珍味として紹介され、塩辛や蒲鉾に加工された商品が売られていることがわかりました。また、日高地区漁協女性部連絡協議会の『日高の埋もれた食材レシピ集』には、すまし汁や蒲鉾を含め6品の具体的な作り方が紹介されていました。

ところで、北海道では、地域の風土や食文化を生かした食づくりを行っている方々を「北海道らしい食づくり名人」として登録しています。上記のレシピ集を作成した“浜のかあさん”たちもその名人として登録されています。（北海道のホームページ>産業・経済>食に関すること 2012.3.1 現在）

### 「なまこ」の作り方と食べ方について

水産物のナマコではなく、「生粉（なまこ）でんぷん」のこと。『澱粉科学の事典』によれば、水分36～38%に脱水された澱粉をいいます。昔はその生粉の塊をストーブに乗せて焼き、表面をはがして食べたのだそうですが、あるまちでは、その他に郷土料理としての新しい食べ方を探していました。馬鈴薯生産の多い北海道にはかつて各地に澱粉工場があり、生澱粉の塊を工場からもらっていたそうです。今回は個人で作る方法をとのことで、ジャガイモから片栗粉（澱粉）を取り出す方法を説明した児童書を紹介しました。

食べ方については、『聞き書北海道の食事』に「ストーブの火の中に入れ、まわりの焦げたところをむいて」「ぱりっとした歯ごたえ」のある食べ方が載っていた他、『北海道新聞』（2008年10月20日）には、煮たカボチャなどを包んで食べたという記事（読者の声「焼きでんぷんの懐かしい味わい」）も見つけ、提供しました。

後日、このまちで開かれた催し物の中で、地元青年の団体が生粉でんぷんを焼き、はちみつやチョコレートなどをつける新しい食べ方で提供して好評だったとの情報を見つけました。

《参考》 〈タコマンマ〉『北海道くいしんぼう浜の旬食べ歩き』（小野寺淳子著、北海道新聞社1999.5） 『北水試月報』木下虎一郎「タコの卵と厚岸のイソガニ」（11巻11号、1954.11） 『日高の埋もれた食材レシピ集』（日高地区漁協女性部連絡協議会2008） 〈生粉でんぷん〉『澱粉科学の事典』（朝倉書店2010.10） 『野菜パワー調べて食べて元気なからだ4イモ類』（文溪堂2005.3） 『聞き書北海道の食事』（農山漁村文化協会1986.4）  
（利用サービス部北方資料室北方資料課）

## 出会いといのちの森・滝川市立図書館

滝川市立図書館副館長 中寺静江

新滝川市立図書館は、平成23年11月12日（土）に街なかの利便性が高い、滝川市役所2階に、移転し、リニューアルオープンしました。市役所の中にある図書館としては、北海道内では珍しい施設になります。



館内は、ワンフロアで開架面積も従来の約2倍、開架冊数は、約1.7倍の60,000冊、低書架で全体が見やすく、書架間も車椅子で利用できるよう広くし、小上がりスペースや読書席も140席設けた他、学習室や授乳室、幼児用トイレ、ベビーカート、子どもと荷物を一緒に乗せられるショッピングカートなども設置し、小

さな子どもから高齢者、障がいを持つ方などが利用しやすい施設設備をしました。また、図書館システムの導入により貸出冊数を5冊から10冊までに拡大、開館時間も平日19時まで2時間延長、休館日も第4木曜日の図書整理日、祝日（土・日に重なる場合は開館）、年末年始、特別整理期間として、年間約330日を開館し、街なかにある立ち寄り型の図書館として利用しやすい環境を整えました。



新図書館の特長としては、「出会いといのちの森」として、図書館全体を森のイメージにし、これまでの日本十進分類法に基づく図書の配架から、テーマに沿って児童書と一般書を一緒に集めたゾーン形式の配架に変更し、8つの森で構成しています。森の構成は、赤ちゃん絵本などのえほんの森から始まり、子どもが大人になっていく成長過程に合わせ、おはなし、ちしき（3種類）、文学、いのち、くらしの森などのテーマに沿って図書を配置し、館内を一周するとライフサイクルに合わせていろいろな本や情報との出会いができるようにしています。



特に、「いのちの森」には、命の大切さ、尊さを伝えたいために命に関連した健康や医療などの本や資料を集めて配架しています。



現在、開館から3か月が過ぎた状況ですが、街なかに図書館があることで利用が増加し、開館から1か月後に、1万人の来館者、2ヶ月後に、貸出冊数も5万冊、登録者数も目標の6,000人を達成しました。1日の来館者数は、前年比の約2倍に拡大していることは、大変嬉しい限りです。

利用者からは、「館内が明るくなった」、「低書架で見やすい」、「来やすくなった」などの声や中・高校生の来館も多くなり、学習室が満席になる時には、閲覧室内や1階市民ロビーで学習している光景も見られます。これまで交通の便や施設環境（バリアフリーになっていない）などで利用できなかった方や市役所に来たついで、通院の帰り、バスの待ち時間にも利用いただいています。市役所はお堅いイメージで入りにくい場所から、図書館があることにより、小さな子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方が来庁されるようになり、お堅いイメージも払拭されたようです。

今後の新図書館事業としては、街なかの地の利を活かして、地域や病院、学校、行政などと連携した情報の収集、提供や新たな〈各コーナーの主題構成〉形成できるような支援に取り組む他、國學院大學北海道短期大学部図書館との相互協定により、各図書館の蔵書の利用や連携した事業の実施、情報の提供などに取り組み、地域に根ざし、市民の暮らしや課題の解決に役立つ図書館を目指していきたいと考えています。

各コーナーに並べられている本	
ア 調べもの・郷土資料	滝川市の資料 北海道の資料 辞典類・年鑑・統計 法律・地図類
イ おはなしのひろば	赤ちゃんえほん・大型えほん・かみしばい
ウ えほんのもり	日本のえほん・世界のえほん 日本のむかしばなしえほん・世界のむかしばなしえほん 行事えほん・キャラクターえほん
エ おはなしのもり	物語 短歌・俳句・詩・古典 名作・外国の物語
オ 新刊コーナー	新しく入荷した本
カ 寄贈本コーナー	団体等から寄贈を受けた新しい本
キ いのちの森	健康・闘病記・医学・薬 病氣・福祉・障害・介護
ク 暮らしの森	保険・年金・生き方・家族・育児 教育・暮らしの困りごと 冠婚葬祭・暮らしの民俗・生活 手芸・料理・住まい・園芸 華道・茶道・絵画・書道・工芸・工作
ケ ちしきの森①	遊び・レクリエーション・ゲーム・クイズ・占い スポーツ・アウトドア・のりもの 科学・自然・植物・動物・昆虫・環境 こども百科事典・図鑑・調べる本・発明・お米 世界遺産・北海道の本（こども）
コ ちしきの森③	パソコン・インターネット ビジネス支援（起業・経営・スキルアップなど） 政治・経済・金融・法律・社会 地方自治・まちづくり 産業・資源・技術・建築・土木
サ 文学の森	小説・エッセイ・ルポ 古典・文学・作家論・文学全集 詩・短歌・俳句・川柳 外国文学 大活字本
シ ちしきの森②	地理・旅行・ことば 伝記・漫画 ヤングアダルト（生き方・ライトノベルなど） アート・芸能 各国事情・歴史 戦争・軍事・哲学・宗教 大型本
ス 図書検索機・柱周り	情報の調べ方、読書論 図書館・博物館 読み聞かせ・学校図書館 児童文学論 本の書き方・作り方

〈各コーナーの主題構成〉

## 平成 24 年度 事業予定一覧表

月	上 旬	中 旬	下 旬
4			子ども読書の日(23日) こどもの読書週間(4/23～5/12) 北図振第1回理事会・総会(25日 札幌市)
5	書庫ツアー(子ども向け)(3日)	道民カレッジ連携講座(18日)	北読進協 総会(札幌市)
6	北海道図書館新任職員研修会 (7～8日予定 当館)		第1回北海道立図書館協議会 道民カレッジ連携講座(20日) 北日図連 北日本図書館大会 (28～29日 青森市) 道民カレッジ連携講座(医療大学共 催)(30日)
7	発見!体験!森林公園スタンプラ リー(7/7～9/2予定)	北海道図書館中堅職員研修会(12～ 13日予定 当館)	
8	書庫ツアー(2日) 道民カレッジ連携講座(8日)		
9	北図振 北海道図書館大会 (6～7日 札幌市) 道民カレッジ連携講座(8日)		
10		北図振 全道図書館研究集会 (11～12日予定 札幌市)	読書週間(10/27～11/9) 文字・活字文化の日(27日) 日図協 全国図書館大会 (25～26日 松江市)
11	第2回北海道立図書館協議会 書庫ツアー(3日) 日図協 全国公共図書館研究集会 総 合・経営、サービス部門 (7～8日 大津市) 北日図連 北日図連研究協議会 (8～9日 福島市)	北図振第2回理事会・全道図書館長 会議(15日予定 札幌市) 道民カレッジ連携講座(17日)	北図振 専門研修(児童/児童サー ビス)(29日予定 旭川市中央図書 館) 日図協 全国公共図書館研究集会 児童・青少年部門(29～30日 広島 市)
12	北学図 青少年読書感想文全道コン クール及び北海道指定図書読書感 想文コンクール(2日 札幌市)	北図振 専門研修(サービス/地域 資料)(13日予定 函館市中央図書 館)	
1	北学図 北海道学校図書館研修講座 (7～9日 札幌市)		北図振 専門研修(経営/関係法規) (25日予定 当館)
2	書庫ツアー(6日)	北図振 専門研修(サービス/レフ ァレンス)(14日予定 当館) 道民カレッジ連携講座(15日)	
3	第3回北海道立図書館協議会		

上記の予定は変更する場合があります。

## 平成 24 年度 展示予定一覧表

◆ 平成 24 年度展示案内

当館では、1階エントランスホール、中2階北方資料室入口で展示を行なっております。  
平成 24 年度は次のとおり計画しております。

月	1階エントランスホール	中2階北方資料室
4月	婦人雑誌の世界	佐藤忠良生誕 100 年
5月		
6月	オリンピック物語	古地図・古書と北海道
7月		
8月		
9月	童話の世界	(時期未定)
10月		
11月	日本のヒロイン	北海道が舞台、映画の楽しみ
12月		
平成 24 年 1月	偉大なる作曲家たち	北海道のテレビ・ラジオ
2月		
3月		
4月		

これらのコーナーのほかにも、北方資料室内、閲覧室（窓辺の本棚）、児童コーナーなどで随時展示を開催します。毎月の展示につきましては、当館ホームページ「今月の展示」で紹介しています。

ここをクリック

当館ホームページのトップページ

北海道立図書館報 第192号

平成24年3月30日発行

北海道立図書館長 河合 正月

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 (代表)

ダイヤルイン

386-8531 (総務企画部)

386-8522 (利用サービス部)

386-8523 (北方資料室)

FAX 011-386-6906 (利用サービス部)

388-2063 (総務企画部)

E-mail : shienka@library.pref.hokkaido.jp

H P : <http://www.library.pref.hokkaido.jp>